

国公立大学現役合格者が過去最高に

一名古屋大学ほか難関大学にも多数合格

前校長による小邑塾の熱血指導の影響を受けてか、平成十九年度二〇年度と、休日返上で早朝から夜遅くまで多くの生徒と先生が学校で受験勉強に取り組み姿が当たり前に見られるようになって来た。キャッチフレーズは、「受験は団体戦」「どこまでも生徒に付き合う泥臭い指導」というところだろうか。

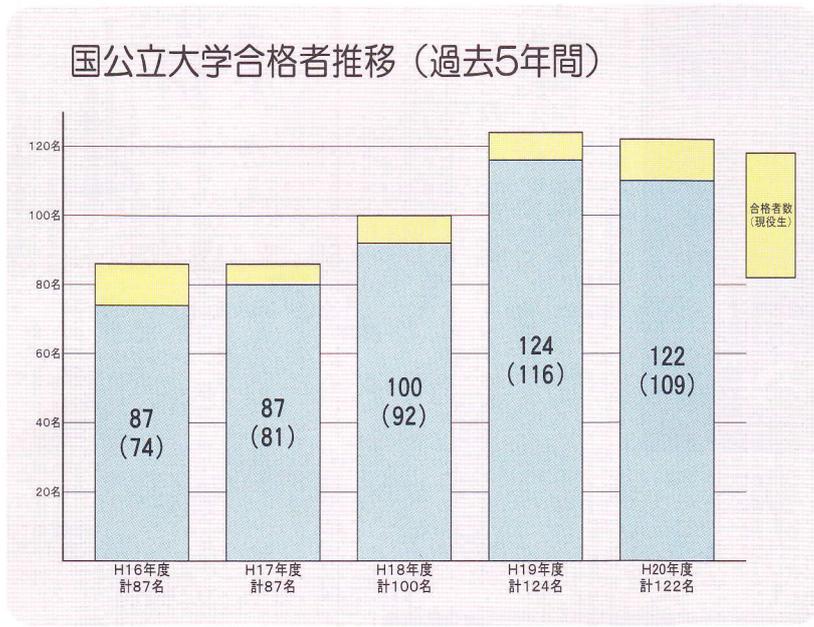
その結果、平成十九年度卒業生の進路決定において、現役生で国公立大学に一一六名、卒業生比率で約半数に及ぶ合格者を出し、過去最高の状況となった。この卒業生比率は、この年の多治見北高校にほぼ並ぶものであった。さらに平成二〇年度も現役生の国公立大学への合格数は一〇九名を数え、特に地元名古屋大学には十四名の合格者を出すなど、かつてない好結果を維持した。

また、岐阜大学医学部や、



— 第8・9合併号 —
 発行/岐阜県立恵那高等学校同窓会
 所在地/岐阜県恵那市大井町1023-1
 〒509-7201
 TEL・FAX: 0573-25-0253
 E-mail: enako-ds@enat.org
 発行責任者 市川 康夫

早稲田・慶応・ICUなど有名私大にも多数合格者を出し、地域の期待に応える進学校としての評価を高めている。
 (詳細は七面に掲載)



平成20年1月、センター試験会場(中京学院大学)にて



各務野高校校長であった渡邊泰治先生が赴任されました。渡邊先生は平成十九年に化学同人社から「黄金比の謎」という科学啓蒙書が出版されるほどの研究者で、いつも幅広い教養と学究的な視点をふまえた格調の高いお話をされ、地域の文化の中心たる恵那高校にふさわしい校長先生としてご尽力くださっています。

平成十八年から二年間にわたって校長を務められ、「がんばれスパー恵那高生」と生徒を励まし、多く新事業に取り組まれた小邑政明先生が、平成二十年の

定期人事異動で岐阜県立関高等学校へ校長として転出されました。後任には、岐阜県立岐阜各務野高校校長であった渡邊泰治先生が赴任されました。渡邊先生は平成十九年に化学同人社から「黄金比の謎」という科学啓蒙書が出版されるほどの研究者で、いつも幅広い教養と学究的な視点をふまえた格調の高いお話をされ、地域の文化の中心たる恵那高校にふさわしい校長先生としてご尽力くださっています。

小邑政明校長転出、渡邊泰治校長着任



渡邊泰治校長

会報協力金について
 平成十九年二月に発行された同窓会報『城陵』第七号までは、前年度に協力金千円を頂戴した会員の方々にお届けしておりました。しかし、この方式で発行し始めた第五号から次第に協力金を振り込んでくださった会員が減少し、平成二十年発行予定だった第八号については同窓生への配布数が五百名を下回るほどになってしまいました。そこで今回は新しい同窓会名簿を作成して、名簿をご購入くださった方々や進んで名簿作りに協力してくださった方々などに、広く会報をお届けすることにしました。

今までご覧になっていない会報が届いて驚かれた方もおられるでしょうが、今後とも母校と本同窓会発展のため、多くの皆様から同封の振込用紙で協力金を寄せていただけることを切望しております。

新緑の校庭にラリーカー出現

―十九年度創立記念講演―

タスカエンジニアリング

田口 幸宏 さん

平成十九年度の創立記念講演会は、五月二十五日(金)の午後、東京からラリードライバーの田口幸宏氏(恵那高三十二回生、㈱アイザック勤務)に來校していただき、『先輩と後輩の挑戦〜先輩がおもしろいものを見せに来た〜』と題した講演と、ラリーカー・電気自動車の実車展示および試乗会を行っていただいた。氏は、昭和六十一年からラリーを始め、現在はタスカエンジニアリングに所属。平成十六年全日本ラリー選手権二位、平成十八年は同六位と常に上位にランクインし、有力ドライバーとして注目を集めているが、平成十八年に北海道で行われた世界ラリー選手権(通称WRC)に、恵那高校の先輩である勝股優氏(恵那高二十一回生、発行部数日本一の自動車雑誌ベストカー誌編集長)から誘われて、三菱ラリーアートチームの協力を受けながらドライバーとして参戦され、第一部は、そのときのお話を中心に映像も交えて興味深い講演をしていただいた。サラリーマンでありながら夢に挑戦する姿がNHKのテレビ番組で取り上げられ、その放送の録面を見せていただいたり、ラリーカーの車体に校章を描いて、恵那高の先輩と後輩のチームとして参戦したことなど、軽妙な口ぶりで楽しくお話ししてくださいました。

後生徒は順次体育館を出て、実際のラリーカーを間近で見たり運転席に座らせてもらったりしながら一棟の各階へ移動し、廊下の窓から校舎前を実際に走る車を見たりと、その軽快な走りとともに試乗した職員からは感嘆の声が漏れていた。最後は参加者全員で田口氏とラリーカーを囲んで記念写真を撮ってお別れを惜しんだ。なお、この模様はこの年の六月下旬号ベストカー誌に特集記事として紹介していた。



全校生徒が見守る中、本物のラリーカーは、校舎に響きわたる爆音をどろろかせて遠慮がちに校舎前を何往復かした。その次は、電気自動車の試乗会である。職員玄関前に集まった試乗希望者は、こんどはまったく音を立てずに、けれども力強く走る三菱「アイ」に乗って、順番に未来の自動車を体験した。この車は、一キロメートルあたり二円の電気代で走ることができるところで、その軽快な走りとともに試乗した職員からは感嘆の声が漏れていた。最後は参加者全員で田口氏とラリーカーを囲んで記念写真を撮ってお別れを惜しんだ。なお、この模様はこの年の六月下旬号ベストカー誌に特集記事として紹介していた。

創立記念講演

南極観測隊に同行して

―二〇年度創立記念講演―

日刊スポーツ新聞社

小林 千穂 さん

平成二十年度の創立記念講演会は、五月三十日(金)の午後開催された。講師は、第四十八次南極観測隊の夏隊(平成十八年十一月二十八日出発、正規の観測隊員二十七名・報道担当二名・研究者一名・大学院生一名)に報道各社を代表して参加された小林千穂さん(高校四十四回)であった。

この南極観測隊には七名の女性が参加したが、その一人が小林さんである。小林さんは日刊スポーツ新聞社文化社会部に勤務されており、四ヶ月間の南極滞在中に、昭和基地から「南極ニュース」を日刊スポーツ新聞紙面やホームページに毎日送り続けられたそう。講演では、南極で「隊員密着」をポイントにした取材をされたことや、昭和基地の様子、オーストラリアから出航し三週間かけて南極に辿り着くまでひどい船酔いに苦しめられたこと、ヘリコプターの下降気流に

吹き飛ばされて取材のカメラを壊してしまったことなど自ら撮影された貴重な写真とともに紹介してくださいました。また、新聞記者という仕事を選ばれた経緯や、女性記者としての苦労話なども語られ、後輩たちを生徒を激励してくださいました。生徒たちは、初めて聞く興味深い話に、熱心に耳を傾けていた。





中津川恵高会は、戦後旧制中学の先輩により昭和二十七年に立ち上げられ、恵蘇会と呼ばれてきたが、新制高校卒が多くなり、故大島会長のときに改名し、冒頭の呼称となった。それは昭和六十年代のことだったと記憶している。

現在、名簿上は九〇〇名を越しているが、活動として目ぼしいものはなく、年一回の定例会・会員の甲

寒さが厳しい冬となりました。同窓生の皆様には、まずまずご健勝でご活躍のことと拝察いたします。また、日頃から本校の教育活動に多大のご支援を賜りますことに、学校を代表して厚くお礼申し上げます。生徒は皆様方の後輩として恥ずかしくないよう勉強や部活動、学校行事に真剣に取り組んでいます。その様子を五つの視点から紹介したいと思います。

「知識から知恵に」

日頃の授業で得た知識をもとに、総合学習や課題研

事への対応などである。平成十八年十一月に定例会を開催したが、ここ何年ものことであるが、出席数が芳しくないのが実情である。ちょうど同じ月に、旧制

中学の二十三回生が、喜寿を記念して中津川当番で同級会を開いた。たまたま二

つの同窓の会が同時期にあったわけだが、もちろん会の性格は同じではないにしても、何かしら感ずるものがあった。

*久しぶりに会っても「やあ：」の挨拶だけで多く

究にも意欲的に取り組んでいます。日本数学コンクール論文部門では、独創的なアイデアで、最高の賞である金賞を受賞しました。知識を知恵にしていく本校の学習システムの成果だと思

「活力の源部活動」部活動も四時から六時までの限られた時間で集中的効果的に練習に励んでいます。特に、ボート部は、高校総体において女子ダブルスカルが優勝し県民栄誉賞を受賞して、部活動全体を勢いづかせています。また、音楽部は、恵那市の図書館でコンサートを開き、本校

語る必要もなく向かい合えるものなのである。*すぐに計算なしの「思い出話や話し合い」が成り立つ



*みんな大なり小なり翌日からの自分の生きる上の糧になることだろう。*母校を遠く離れて社会に

がロケ地となった映画「青い山脈」の歌を合唱して市民の方々に楽しんでいただきました。このように部活動は本校の活力の源です。



「映画監督絶賛の城陵祭」恵那市の市民活動の一つに、「恵那心の合併プロジェクト（平成の青い山脈をつくろう）」があります。その監督さんが城陵祭のオ

出た者にとって、自分の家を思うと同じくらいに母校を思うものだろう。*各地区の同窓会は、遠地ほど強い絆があるよう

受け皿としての同窓会

中津川恵高会(恵蘇会)前会長

水野 孝

ある。ともに人生を歩もうとする気持ちのあらわれであろうか。高邁な理想を掲げ、社会に出た諸兄を鼓舞し、会

が、一般的にはどのような纏めたら良いのだろうか。同窓生にとつて「同窓会」とは何だろうか。同窓意識は個々によって違うことは言うまでもない

恵那高校を卒業した多くの同窓生にとつて「同窓会」とは何だろうか。同窓意識は個々によって違うことは言うまでもない

自分の活動をするのもひとつの大切な目標であることは間違いない。同窓生側から考えると、「各自が己の道をそれぞれ歩んでいるとき、ふとしたきっかけで我が家のように少し息つくことのできる精神的な場所を提供するところ」だとしたら、ソフト面での役割が果たせられるのではないだろうか。



「同窓会からの温かい支援」同窓会からの提案により、在校生の中で恵那高校の名を高める活躍をした生徒に与える賞を創設していただきました。昨年度四名、今

母校を訪ねてください

前恵那高等学校長

小 邑 政 明

の講義などに対する同窓生の皆様方の支援が生徒の大きな自信になっています。

「広報活動を充実」ここに紹介させていただいた取り組みを始め、本校

年度八名の生徒が二月十一日の恵那城陵会総会で表彰を受けました。また、創立記念講演やスローサイエンスハイスクール事業(今年度から新たに五年の再指定)

の活動を多くの方々を知っていたため、ビデオなどの制作に力を入れております。同窓生の皆様、是非恵那高校にお立ち寄りいただければと思います。

※(編集者より)本稿は小邑前校長在任中に執筆していただいた文をそのまま掲載いたしました。文中の年度を示す表現は、平成十九年度時点のものとなりますことをお詫びして申し上げます。

母校のトピックス

毎年のように全国大会に出場し数々の入賞実績を持つボート部だが、平成十九年度はとりわけ大きな成果を勝ち取った。三年生普通科の向井楽・篠原衣織両選手が、女子ダブルスカル種目で全国インターハイ優勝を成し遂げたのである。

優勝は、一九八四年の秋田インターハイで男子シングルスカル優勝を果たし、後にバルセロナとアトランタの二度のオリンピックに出場した岩畔道徳氏(現明治安田生命ボート部監督)以来の快挙である。

向井さんと篠原さんは、二年生の夏からダブルスカルに乗り組んでいたが、秋の新人大会の決勝で向井さんのオールが折れて漕げなくなってしまうというアクシデントに見舞われ、春の全国選抜大会には出場すらできなかった。三年生になっても、全国から強豪が集まる中日本レガッタや、東海インターハイなどの県外大会では優勝することはできなかった。全国的にはほとんど無名だったということである。

しかし、佐賀県唐津市の松浦川ボートコースで八月八日から十二日にかけて行われた全国高校総体では、予選こそ急な逆風でタイム的には振るわなかったが、二次予選(準々決勝)で2位に四秒近くの差をつけて



最高タイムで準決勝に進出すると、準決勝、決勝と強い順風で水面が荒れる中を力強く安定したオールさばきで漕ぎ切り、ついに悲願の優勝を果たしたものである。ちなみにこの会場は、三十年ほど前にも全国インターハイが行われ、現監督の西尾源寿教諭が恵那高ボート部の選手として出場した因縁の場所で、西尾監督にとっては、自分の果たせなかった夢を教え子であり後輩である二人の選手が叶えてくれた形になった。

ボート部女子ダブルスカル全国制覇



施設・設備の充実

数学演習室に

檜の机が入る

(19年4月)

平成十九年四月から、数学の授業や放課後補習、夜遅くまで学校で自習する受験生のために使われている三棟新館の数学演習室に、普通教室の机より一回り大きい新しい机が一クラス分入った。今までも、三棟新館が完成した二十年ほど前から天板の大きなスチール机が使われていたが、今回は県の産業振興策の一環として県産材による机と椅子が県立学校に導入されることになり、恵那高校に配分されたものである。真新しい白木の机と椅子に向かって一心に勉強する受験生を、芳しい檜の香りが包み、教室には凛とした空気が満ちていた。



グラウンド西に 新部室棟

(21年3月)

もう四十年近く母校のグラウンド西側で生徒が使ってきたコンクリートブロック製の部室が老朽化したため、平成二十年度に県予算で新しい部室棟が同じ場所に建てられた。十月に工事が始まり、平成二十一年三月に竣工、四月の新年度から主にグラウンドや第一体育館で活動する運動部によって使用されている。鉄骨モルタル造りで総二階の建物は、延べ床面積百八十平米、一階には体育関係の器具庫も設けてある。学習と部活動の両立を目指す生徒たちにとっては、広くて整然とした部室が何よりの応援となることだろう。



平成19年度スーパーサイエンスハイスクールに再指定

インターネットで遠隔地から授業

ネットレクチャー

(19年7月)

平成十九年度に改めて五年間の指定を受けたスーパー・サイエンス・ハイスクール事業の一環として、本校と、福井県立大学をTV会議システムでつないで、同大学から講演をうけた。1年生生理数科の2クラスが対象で、講師は福井県立大学、生物資源学部、海洋生物資源学科の神谷充伸准教授。演題は「地球環境における藻類の重要性」。藻類が地球温暖化防止に多大な貢献をしていることや、その藻類が激減している現状などについて講演された。



若狭の海で自然観察

野外セミナー

(19年8月)

ネットレクチャーをうけてその発展的学習を行うのが、若狭の海で3間実施される野外セミナーである。講師はネットレクチャーで1年生生理数科の生徒がモニターを通じて講義を聞き、質疑応答をした、神谷充伸准教授を初めとする福井県立大学の先生方。磯採集で、ウニや魚類、藻類を採集し、ウニの発生、海藻の色素の分類の実験などを行った。海のそばでの宿泊を伴った研修で生徒には人気のある行事である。

ナノテクノロジー講演会

同窓生の澤木教授を招いて

(20年1月)

平成20年1月10日、恵那高校で「未来を拓くナノテクノロジー」と題した科学講演会が行われた。講師には恵那高の同窓生で名古屋大学教授、工学博士の澤木宣彦先生(高校16回)が招かれた。情報化社会の到来で、世界中の民族が等しく豊かな生活を享受することが出来るようになりつつある一方で、エネルギー消費量の増大による地球環境の破壊が危惧されている。現代の豊かな生活を維持・発展させながら、エネルギー消費の少ない社会を創るための方法の一つとして、ナノテクノロジーは、安全・安心・豊かさを与える新しい技術として期待されている。おり、世界中の国々で国家プロジェクト研究が進められている。澤木先生は、それらを分かり易い例で紹介され、生徒達は真剣な表

情で話に聞き入った。



ノーベル賞の成果で実験

光る大腸菌づくり

(20年10月)

平成二〇年度の理数科一年生は、一〇月九日(木)一〇日(金)の二日間にわたり遺伝子組み換え実験「光る大腸菌を作ろう」に挑戦した。この実験は、平成十四年度から高校現場でも実施が許可されたが、今回は恵那高校のスーパーサイエンスハイスクールの事業のうち、地域の研究機関との

連携事業の一つとして、瑞浪市にある岐阜県先端科学技術体験センター(サイエンスワールド)の協力を得て実施されたものである。実際の遺伝子の組み換えは技術的にも難しく、今回実施したのはすでに遺伝子組み換えされたDNA(オワンクラゲのもつ緑色に光るタンパク質)GFP遺伝子)を大腸菌に導入する実験である。全グループが導入に成功し、翌日には紫外線を当てると光る大腸菌が確認された。緑色に光る大腸菌を、携帯電話を使って写真に撮る生徒もいた。それというのも、ちょうどこの実験の行われた前日に、下村脩ポストン大学名誉教授がGFP遺伝子の発見という功績でノーベル化学賞を受賞したというニュースが届いたからである。最新のノーベル賞を受賞したような研究を、高校の実験室で体験できることに、多くの生徒は胸を躍らせたことに違いない。極めてタイムリーな実験だったので、毎日新聞、中日新聞にも取り上げられた。



シンガーソングライターの中西圭三さん来校

平成二十年七月十八日、EXILE(エグザイル)のChoo Choo TRAIN(チューチュートレイン)や数多くのコマーシャルソング・テレビ番組の主題歌などのポピュラー音楽の作曲家として知られている中西圭三さんが突然恵那高校を訪問され、音楽部の生徒らと音楽を通して交流をした。中西さんの演奏に耳を傾けたり、音楽部の生徒が自慢の合唱曲を披露したり、中西さんの曲を直接指導を受けて練習し、ポップなハイモニーを楽しんだり、放課後の音楽室は、濃密なライブ会場のような雰囲気になりました。



第三〇回・三十一回 音楽部定期演奏会

毎年三月に行われている音楽部の定期演奏会は、平成二十年三月二十三日に恵那文化センターで三〇回目を迎えた。演奏会ではテーマである「ことば」に合わ



谷口先生の指導で卒業生と部員が合唱

せた六ステージ二十二曲を演奏した。ラテン語や英語の曲、Jポップのほか、客演指揮者を招いたステージなどで三〇回の節目に花を添えた。

翌、平成二十一年三月二十二日に行われた第三十一回定期演奏会は、初めて会場を中津川文化会館に移して、全体テーマを「しずく」とし、なじみの曲や寸劇を交えた曲を含めて約二〇曲を演奏した。恒例のOB・OG合同ステージでは音楽部の卒業生約五〇名がステージに上がり、部で歌い継がれている二曲を演奏した。

恵那高の大先輩、 応援の作法を伝授

「伝統を守る会」生徒と交流

平成十九年六月二十七日午後、恵那市大井町の岐阜県立恵那高等学校に、同校卒業生の有志による『恵那高校の伝統を守る会』が訪れ、体育祭の応援団長ら現役高校生と交流した。

この会は、旧制恵那中学校出身の森川正昭名誉会長を筆頭に六〇歳以上の会員が中心となって、各地で開かれる同窓会の場に応援旗や横断幕を掲げ、伝統の作法にのっとった応援歌や校歌の指揮を行うなどの活動を続けてきた。けれども、現役高校生や若い同窓生が数多くある恵那中学時代からの応援歌を一曲しか歌えず、ましてや応援の作法もまったく伝わっていないということを知って、まずは高校生と交流したいと母校に申し出た。ちょうどその頃、高校生の側でも八月末に行われる体育祭の応援合戦に向けてアイデアを練っていた最中で、伝統の応援の作法に触れてみたいという応援団長らの声でこの交流は実現した。

羽織袴に白髪をなびかせ

た大先輩の雄姿に、最初は圧倒された様子だった高校生も、一緒に大声を張り上げ、恵那高校で唯一歌い継がれている応援歌である『城陵歌』を歌ううちに、年齢の差を超えた同窓生としての一体感を感じたようだ。



またこの続きとして、同年八月二十六日の城陵祭文化の部から体育の部への引継ぎ式においても「伝統を守る会」の三名の方々が昔さながらの羽織・袴・はちまき姿で体育館ステージに立たれ、趣旨説明と口上・応援歌高唱（「見よ燎然と」「東雲高く」）を行われた。意外な展開に在校生は何が始まるのかと興味津々だったが、在校生を代表して体育祭の紅・白・青の応援団長が壇上に立ち、ともに熱き思いを交歓し合うと、第五十八回城陵祭の体育祭に向けて機運は最高に盛り上がった。

新校舎の建設に着手

— 創立90周年にあたる平成24年度までに —



平成二十年度の岐阜県予算で、恵那高校の旧校舎改築について予算が認められ、恵那高創立90周年にあたる平成二十四年度いっぱいまでかけて、昭和三十八年の火災後に建てられた現在の第一棟（校長室・職員室の入った本館棟）と第二棟（理科教室棟）が建て替えられることになった。二十年度中に基本的な設計が確定し、二十一年度には細部にわたる具体的な設計が行われる。確定した設計による完成予想図は左のとおりだが、一・二棟を一体化した一つの校舎とし、恵那高同窓会として要望した旧制中学時代の風格ある木造校舎を彷彿するデザインが取り入れられている。詳細は次号でお知らせできる予定。



城陵祭ステージで伝統の応援

卒業生のおもな合格先 - 過去3年間 -

※現役合格者と過年度合格者の合計数。()内は過年度合格者の内訳数

【国立大学】

大学名	年度	平成20	平成19	平成18
北海道		1		1(1)
北海道教育		1(1)	2	
弘前			1	
東北			1	
宮城教育				1(1)
山形		1(1)		
福島		1		
茨城			1	
筑波		5	1	
宇都宮		1	1	1
群馬				
埼玉		1	1	
千葉		2	4	1(1)
電気通信			1	
東京				
東京外国語			1	
東京学芸			3(1)	1(1)
東京農工			1	
東京医科			1(1)	
一橋		1(1)	3	4(2)
横浜国立		1(1)	3	4(2)
新潟			1	
富山		5	2	3
富山医科薬科				
金沢		4	6	1
福井		1	1	2
山梨		6(1)	2(1)	4
信州		16	15	5
静岡		3(1)	8	6
浜松医		1		
愛知教育			2(1)	2
名古屋		14(1)	4	9
名古屋工業		5	3	2
岐阜		18(1)	15	3
三重		2	5(1)	3
滋賀			1	1
京都			1	1
京都教育		1		1
大阪		1	4(1)	
大阪外国語				2
奈良女子			1	1(1)
奈良教育				
和歌山			2	3
神戸		1	2	1
鳥取				1
島根			1	1
広島		1	1(1)	
高知				
徳島				
香川				1
山口				1
宮崎			1	
鹿児島				
佐賀			1(1)	

【公立大学】

大学名	年度	平成20	平成19	平成18
創設公立		1		
秋田県立		1	2	
国際教養		1		
高崎経済		1	1	
首都大学東京		1(1)		4
横浜国立		2(1)	1	
新潟県立		1		
福井県立		1	2	1
都留文科		1	4	2
山梨県立		1		2
長野県立看護				1
岐阜県立看護		2	2	2
岐阜薬科		1(1)		
静岡県立		2	2	1
愛知県立		3	5	4(1)
名古屋国立		4	3	2
滋賀県立				
京都府立		1(1)	1	
大阪府立		1(1)	1	
大阪府立		3		
神戸市外国語		1		
兵庫県立			1	2
岡山県立		1		
広島市立			1	
島根県立				1
宮崎公立				1
山口県立			1	
富山県立			1	1
千代田市立		1	1	2
長崎県立		1		
北九州市立				1

【私立大学】

大学名	年度	平成20	平成19	平成18
早稲田		4(1)	8	8(2)
慶應義塾		1	2	6(3)
上智			1	3(1)
明治		6	9	12(1)
青山学院			3	3(2)
立教			3	4
中央		2	5	8(1)
法政		4	4	10(1)
国際基督教			1	1(1)
駒澤		1	2	3
学習院			1	
國學院		2		
成蹊		1	2	
専修			1	5(1)
東京理科		2(1)	9	8(2)
東京都市		2		
東京農工		2	1	4
東京薬科				2
東海		1	1	1
東洋		1(1)	3	3
日本		2(1)	3	1(1)
日本体育		1		1
日本福祉		4	9	10
日本歯科		2		
日本女子		2	1	
日本獣医生命科学			1	
東京電機		1		
東京家政学院				1
東京経済				1
東京工科		1	4	
獨協		1		1(1)
神田塾		1	4	
玉川			1	
共立女子			1	
国立音楽		1		
順天堂		1		
創価			5	1
北里		2	1	3
拓殖			1	
帝京		2		
神奈川		1	1	3
神奈川工科		1		
芝浦工業			2	2
武蔵			1	
武蔵野		2	1	
武蔵野芸術				4
武蔵工業				4
実践女子				1
聖心女子			1	

大学名	年度	平成20	平成19	平成18
愛知		20	9	10(1)
愛知医科		4	2(1)	2
愛知学院		6	4	8
愛知学芸				1
愛知工科				1
愛知工業		9	10	6
愛知産業			1	
愛知敬徳			21	22(1)
愛知文教		1		
愛知みずほ				2
南山		26(1)	44	28(3)
中京		21	20	16(1)
中京女子			2	
中部		33	11	21(2)
中部学院			3	1
名城		46	45	39(2)
名古屋外国語		4	6	7
名古屋学院		3	4	6(2)
名古屋学芸		5	1	4
名古屋経済				2
名古屋芸術				1
名古屋女子				6
名古屋商科		3	2	2
名古屋造形芸術		4		
名古屋音楽		1		
音楽学園			1	1
東海学院			1	
東海学園		1	1	1
旭山女学園		2	6	2
皇學館		2		
星城		2	5	5
桜花学園			1	
金城学院		14	12	15(1)
豊橋創造		1		2
豊田工業		1		
大同工業		1	1	4
岐阜医療科学		2	2	3
岐阜聖徳学園		4	8	7
岐阜経済			2	
四日市看護医療				2(1)
静岡文化芸術		2		
金沢工業			2	
富山国際				1
鈴鹿医療科学		4		
北陸				1(1)
浜松				1
藤田保健衛生		13	4	2
川崎医科大学		1		
臨海学園		1		

【私立大学】

大学名	年度	平成20	平成19	平成18
同志社		4	9	6
同志社女子		1		1
立命館		13	30	20(2)
関西学院		2	5	4(1)
関西		2	11	5(2)
関西外国語				1
関西国際				1
関西福祉科学		1	1	
京都外国語		1	2	6
京都学園				1
京都橘		4		1
京都産業		1(1)		2
京都女子			1	2
龍谷			9(1)	8
奈良		1	1	
近畿		2	4	4(1)
佛教			1	2
天理			1	
大阪芸術				1
大阪工業				1
大阪体育				1
大阪大谷			1	1
大阪産業			1	
大阪学院			1	
岡山理科				1
千葉工業		1	3	3
帝塚山学院			1	
帝塚クリストフ			1	
岩手医科大学			1(1)	
兵庫				
南九州				2
北海道医療				1
大妻女子				2
明星		1		
白百合				1
龍野		1		
明治国際医療		2		
昭和音楽		1		
昭和女子				1

【短大】

大学名	年度	平成20	平成19	平成18
秋田公立美工短大				1
千歳県立衛生短大				
東京農業大短大				
青山学院女子短大			2	
共立女子短大				
昭和女子短大				
長崎女子短大				1
長野県短大				1
飯田女子短大				1
岐阜医療技術短大				
東海女子短大				1
愛知大学短大部				
愛知江南短大				
愛知工科短大				1
愛知みずほ短大			2	
岡崎女子短大				
藤田衛生技術短大				
名古屋芸術短大				
名古屋短大		5	5	7
名古屋女子短大			1	1
名古屋文理短大			1	
南山短大		1	4	1
名古屋学芸短大			3	1
名古屋経済短大		1		
名古屋柳城短大			1	
敬徳短期大学				1
中央短大		1		
川崎市立看護短大			1	
名古屋文化短大			1	
東京家政短大				
日本工学院				
龍谷短大				
明治鍼灸医療技術短大				
島根県立女子短大				
関西外国語短大			1	
愛知学泉短大			2	
静岡県立短大			1	
岐阜保健短大			1	
湘南短大			1	

【医療系専門学校】

大学名	年度	平成20	平成19	平成18
愛知学院看護専門学校		1		
愛知学院総合看護専門学校		1		
神奈川県立看護衛生専門学校				1
あじさい看護福祉専門学校				1
岐阜県立多治見看護専門学校		1	5	
岐阜県立衛生専門学校				1
愛知学院大学歯科衛生士専門学校				1
中和医療専門学校			1	
愛知医療専門学校				1
愛知県立歯科衛生専門学校				1
公立春日井小牧看護専門学校		1		5
公立瀬戸旭看護専門学校			1	6
国際医学技術専門学校				1
中部労災看護専門学校		1	2	1
藤田保健衛生看護専門学校				1
日本医療福祉専門学校				1
名古屋医療センター附属名古屋看護助産学校		1		
名古屋医療秘書福祉専門学校				1
名古屋市立中央看護専門学校			1	
名古屋福祉保育医療専門学校				1
名鉄看護専門学校				2
名古屋病院専門学校附属リハビリテーション学院				1
岐阜県立総合看護専門学校		1	5	
名古屋中央看護専門学校				1
名古屋医療専門学校			1	
昭和大学医学部附属看護専門学校		1		
中部リハビリテーション専門学校				9

【その他】

大学名	年度	平成20	平成19	平成18
海外の大学				
その他の専門学校				9

同窓会により

「Student of the year賞」創設

— 毎年2月11日の恵那城陵会場で現役生徒を表彰 —

平成十八年度から、現役生の中でその年度に恵那高の歴史に残る活躍をした者を顕彰するための「Student of the year」賞が恵那城陵会の発案で創設され、毎年二月十一日(祝)に開催されている恵那城陵会場で授与式が執り行われている。初年度は恵那城陵会として賞が準備され、陸上男子走り高飛びで東海高校総体を制した三年生の小栗良太君と、日本数学コンクール一般の部で論文賞金賞に輝いた一年生の吉村柁彦君・足立亜沙美さん・水野奈穂子さんのグループの合計四

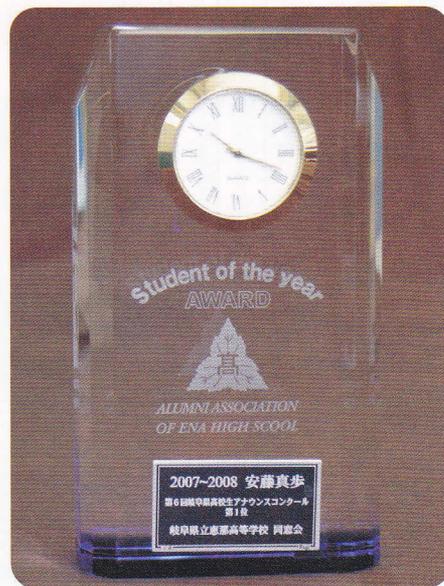


平成20年2月の授与式の模様



名に記念品と表彰状が授与された。翌年度からは、恵那高同窓会本会の主催行事としてこの賞が授与されることになり、平成二十年二月の恵

那城陵会総会に先立って、柁植章同窓会長から生徒に時計付きのクリスタル楯と斬新な表彰状(写真)が手わたされた。受賞者は、全国高校総体ポート女子ダブルスカルで優勝に輝いた三年生の篠原衣織さんと向井楽さんのペア、恵那高がSSH指定を受けてから初めて全国SSH生徒研究発表大会で入賞した三年生の足立美紗さん・松原由布子さん・足立菜々さんのグループ、



NHK全国放送コンテの朗読部門で準決勝に進み、全国で十二位の高得点をおさめた三年生の安江英さん、岐阜県放送アナウンスコンクールで本校放送部として初の第一位に輝いた二年生の安藤真歩さん、岐阜県高校放送コンテスト朗読部門で本校としては十三年ぶりの第一位を勝ち取った二年生の加藤文乃さん、中部高校演劇コンクールに本校演劇部として二十三年ぶりに出場し、さらに初の中部大会入賞となる脚本賞をうけた前年度三年生の柁

植那実香さんの合計九名であった。また、平成二十年度の「Student of the year」賞を受賞したのは、県高校総体陸上女子女子やり投げ優勝の三年生田中晴子さん、全国高校総体陸上女子走り幅跳び2年連続出場場の三年生山内杏珠さん、県高校総体弓道男子個人の部で優勝し全国高校総体体育弓道男子個人の部に出場した二年生松浦知樹君、日本数学コンクール論文賞銅賞を受賞した三年生大浦真暉君、県高校総合文化祭合唱部門最優秀賞の音楽部の生徒たち、県学生球算競技大会高校生部で団体優勝した一年生鎌田果歩さん・二年生山崎航君・伊藤恵さん、同大会個人総合優勝鎌田果歩さん

㈱イービーエスの 個人情報取扱いについて プライバシーポリシー

同窓会では会員の皆様に役立つ活動と信頼をいただく組織づくりの為、個人情報については、以下の考えに沿って、適正な管理を行い、正確性・機密性の保持に努めています。

1. 情報を収集する目的
 - ・会則に基づき同窓会事務局からの連絡。(同窓会活動とは、会員名簿の作成、会報誌の発行、総会案内・寄付金等の募集など)
 - ・母体からのお知らせ
 - ・同窓会開催の為の連絡。
2. 収集する情報の種類
 - ・氏名・住所・電話番号、勤務先名と電話番号。
 - ・その他に必要な場合は、生年月日、在学時クラブ、最終学歴、メールアドレスなどがあります。
3. 情報の収集方法
 - ・学校との十分な安全措置を講じたうえで、卒業時の情報を基礎データとし、より正確な情報を得る為、事業の都合できるかぎりご本人の申告を募っております。
 - ・基本的には郵送での連絡となりますが、名簿作成時などは事前に郵送でご連絡した後、電話確認をさせていただく場合があります。
 - ・また緊急時においては、電話もしくはメールでの確認などの場合もあります。
4. 情報の利用・提供
 - ・同窓会では、次の場合を除いて会員の情報を利用したり外部に提供することはありません。
 - ・会員ご本人が同意されている場合。
 - ・法令により必要と判断される場合。
 - ・会員の皆様または公共の利益の為に必要であると判断される場合。
 - ・同窓会組織活性化及び整備に必要とされる場合。
 - ・業務委託をする場合(機密保持契約締結)。

上記で定める業務委託の会社は以下の通りです。
株式会社イービーエス 東京都足立区倉倉3-11-266E TEL:03-5839-3456

5. 情報の管理方法
会員の皆様の情報を正確、最新なものにするよう常に適切な措置を講じています。また、会員以外への不当な情報の入手や目的以外の不正利用の防止に、最善を尽くしています。

6. 会員ご本人の情報の開示、訂正、削除のご請求
会員ご本人からご自身に関する情報の開示、修正、削除のご依頼があった場合は請求者ご本人であることをご確認させていただいたうえで、すみやかに対応いたします。

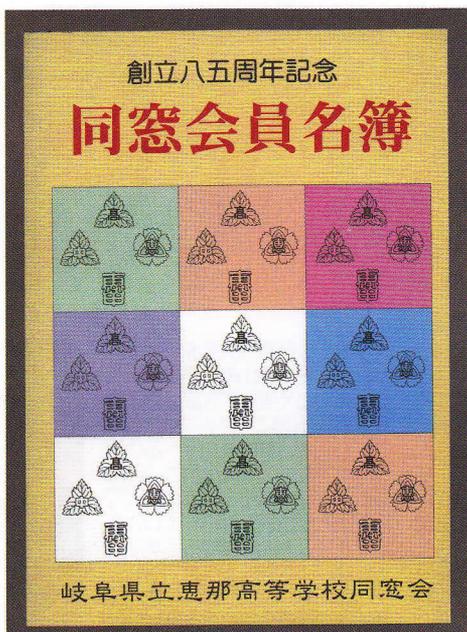
(個人情報についてのお問い合わせ先)
E P S事務局代行 TEL 0120-10-9899 (内線55) 平日10:00~16:00
FAX 0120-10-9184 終日24時間受付

創立八十五周年記念同窓会会員名簿発刊

平成十九年五月に恵那高会議室で行われた同窓会総会にて、この同窓会報「城陵」をより多くの方々に届けて購読してもらえようように、同窓会名簿を更新することになった。今までの同窓会報「城陵」は、協力をいただいた会員のみに配布してきたが、年々購読者が減り、前回発行の第七号はついに五百人を切るまでとなった。そこで同窓会事務を代行する専門業者に委託して、来たるべき九十周年に向けた組織の再構築を図るべく、新たに会員の連絡先を確認し直し、連絡のつく会員の元へ同窓会報「城陵」を全員配布しようということになったのである。こうした専門業者に同窓会事務を委託する方式は、すでに近隣のほとんどの高校が採用していることとであった。

恵那高の同窓会名簿は、創立八十周年記念事業の一環として五年前に発刊されたばかりだが、その後恵那・中津川地域をはじめ全国的に市町村合併が進んだことや、若年層の住所変更が著

しいこと、個人情報保護制度が普及したことなどで、確実な会員の連絡先がかなり減ってしまった。ちやうど定期的にも創立八十五年の区切りになるということ、平成二十年度までに新しい同窓会名簿を発刊することとし、平成十九年



六月までに柘植会長と地元市の市川副会長、荻野副会長、伊藤教頭他から成る選考委員会会で慎重に専門業者を決定。結局、中津商業高校などが契約している東京都足立区の株式会社イーピーエスに、新しい名簿の編集・発刊からその後の会員情報の管理、会報などの配布物の編集や発送、協力金等の

募集といった同窓会事務を一括して委託することとなった。契約にあたって示された同社の個人情報管理にかかわる基本方針は、別掲の通りである。新しい同窓会名簿は、同年十一月から郵便物による全会員への調査に始まり、

たが同年十月に「創立八十五周年記念」と名うって発刊の運びとなった。イーピーエス社による発刊までの事務概要は左記の通りである。今後、この名簿を元に同窓会報の配布や協力金の募集を初めとした会務の効率化が図られることを期待したい。

【調査結果】

会員構成数

現職員	66名	平成20年度
旧職員	769名	平成20年3月離任まで
卒業生	24,249名	平成20年3月卒業まで(中学1回(昭2)~定分校19回(昭46))
在校生	718名	平成20年度
合計	25,802名	

判明内訳

郵便判明数	18,480名	旧職員+正会員 (現職員・在校生 除く)
国外判明	58名	国外在住者でも国内住所がある方を除く
物故者	3,608名	お亡くなりになられた方
前回不明	1,849名	作業前の不明者で情報の無かった方
今回不明	952名	宛先不明で情報の無かった方

名簿収録数

氏名掲載	26,225名
住所掲載(物故含む)	24,257名
人名索引	33,145名

判明数	23,001名
判明率	89.10%

八十年の軌跡 ⑧

同級生同士 甲子園で代理対決

いささか旧聞に属しますが平成19年の高校野球甲子園大会のことをおぼえていらっしゃるでしょうか。春の選抜大会では、岐阜県代表の大垣日大高校が静岡県代表の常葉菊川高校と決勝で対戦し、大垣日大高校が惜しくも敗れて準優勝となりました。その夏の選手権大会でも、再び大垣日大高校と常葉菊川高校は準々決勝で対戦することになり、またも大垣日大高校が敗れました。この因縁の対決、意外にも恵那高同窓会とも関係があったのです。実は、大垣日大高校の主将だった小林選手の父親、小林泰喜さんと、常葉菊川高校の校長である吉村耕司さんは、偶然にも恵那高校の同級生(高校26回)だったので、小林さんにとっては大垣日大チームは息子の兄弟たち



19年春の選抜大会を征した常葉菊川高ナインと吉村校長



日大大垣高野球部坂口監督を囲む小林父子

のようなもの、一方、吉村さんにとっても常葉菊川チームは誇らしい息子たちのようなものです。平成19年の甲子園における、大垣日大高と常葉菊川による因縁の対戦は、二人の恵那高同窓生が引き合わせたものかも知れません。

八十年の軌跡 ⑨

山田隆一先生制作の 野口英世像が5校に

日本政府は『ノーベル賞』に匹敵する『野口英世賞』を創設。平成20年5月、2人のアフリカの保健・福祉貢献者に初の同賞を贈った。ところで昭和23(1948)年から5年間、恵那高で美術を担当された山田隆一先生制作の『野口英世ブロンズ胸像』が、岐阜県下



山田隆一先生
昭和27年に描かれる

の小・中学校5校に建立されていることが分かった。野口英世記念館(福島県猪苗代町)が現在までに把握している『野口英世像』は国内外で161か所。同館資料による山田先生作品の建立個所は次のとおり。

- 可児市・蘇南中学校
- 岐南町・西小学校
- 笠松町・笠松小学校
- 笠松町・松枝小学校
- 御嵩町・伏見小学校

注IIこの話題は田口豊太さん(高3)から発見連絡により、古山精(高1)が調査した内容です。

同窓の話題

— 城陵短信

母校の恩

忘れがたく

— 10回生校旗三十枚寄贈 —



高校十回生(代表幹事、鎌田公道氏)は平成19年年度をもって卒業五十周年を迎え、三月一日恵那峡グランドホテルにて、恩師の花田春雄先生(旧中十六回)、石田謙蔵先生(旧中十九回)と同窓生八十一名を迎え、盛況の内に式典と懇親会を行った。最後の「ファイヤーストーム」伝承学年の記念行事として、石田謙蔵先生のご指導により母校創立八十周年記念祝賀会での応援団長をつとめた鎌田公道氏による口上と城陵歌の再現実演があり、四年後の息災での再開を誓い合った。その席上、母校と恩師の御

厚情忘れ難しと募金を募り、校旗三十枚を贈ることに衆議一決、三月二十八日に母校を代表三名が訪れ目録を手渡した。

旧中24回生 母校に横断幕を贈る

平成20年7月15日、恵那高の校長室を旧中24回生の関係者が訪れ、「がんばれ恵那高等学校」と書かれた長さ約10メートルに及ぶ横断幕を寄贈された。



同窓生から地元県議・瑞浪市長誕生

平成十九年春の統一地方選挙で、恵那高同窓生の水野正敏氏(高校二十九回)が恵那市選挙区から県会議員に初当選されました。従来この選挙区からは、ともに恵那高同窓生の加藤利徳氏(中学十九回)と西尾直躬氏(高校十四回)の二名が選出されていましたが、このたび水野氏に後進に道を譲られる形となったのです。

水野県議は平成十七年度に恵那高校のPTA役員もされた根っからの母高のサポーターです。県立高校として間もなく創立九十周年を迎え、新校舎建築という大事業に取り組まなければならない恵那高校にとって、心強い相談役になってくださることでしょう。

また、同年七月に行われた瑞浪市長選挙では、同じく恵那高同窓生の水野光二氏(高校二十四回)が初当

選されました。水野市長は、初登庁直後の来客として恵那高ボート部でその年の全国インターハイで優勝した向井選手の表敬訪問を受けて大変喜ばれたようです。

というのも、水野市長自身が恵那高ボート部に席をおかれていたことがあるうえに、向井選手が市長の地元と同じ釜戸中学出身という奇遇が重なったからです。近年瑞浪市から恵那高へ進学する優秀な生徒が増えています。水野市長のご縁でさらに多くの生徒が恵那高校に関心を持ってくれるようになればと期待は膨らむばかりです。



水野正敏県議



水野光二瑞浪市長とボート部向井選手

各地区各回各同窓会あれこれ

①

日光東照宮で特別祈とう 金谷ホテルの料理を満喫

昭和20年入学の中学24回生「恵中20年会」恒例の19年度懇親バス旅行は、4月10、11の両日、17人が参加し「日光東照宮参詣旅行」。鬼怒川温泉・鬼怒川御苑

に宿泊後、翌日朝は日光東照宮着座の間で神職の社殿説明と特別祈とうを受け、客殿で直会。更に昼食は、日光金谷ホテルのダイニングルームでコース料理。豪華で充実した2日間に、参加者全員が堪能して帰宅。(中24・田口 豊太)



ボート部、 創立四十五周年を祝う

毎年のように全国大会に出場し、オリンピック選手も輩出したボート部が、初めて部員を集めて発足したのは昭和三十六年の春のこと。ボート部OB・OG会(恵漕会)では、五年ごとに恒例で祝賀会を行っているが、数えて四十五年目の年度となった平成十九年元旦、「初漕ぎ」の後に恵那峡グランドホテルに百名余のOB・OGと現役部員を集めて創立四十五周年祝賀会が行われた。現役主将の田口君の旗振りで校歌をうたって開会し、還暦過ぎの大先輩から大学生の若輩まで、年代ごとの写真の映写や挨拶が続いて、盛会のうちに幕を閉じた。



恵中20会が同級会 伝統を守る会も 参加して

昭和20年に恵那中学校へ入学した恵中24回生の同級会「恵中20会」は、昨平成19年8月25日、前年に引き続き、土岐市・竜庵に32人が出席して18回目の総会を開いた。

今年「恵那高の伝統を守る会」が参加し「校歌」「域陵歌」の斉唱後に開会。盛大な中にも、思い出深い同級会となった。



64回開催の親睦ゴルフ

「22恵中ゴルフ会」は中学第22回生の親睦ゴルフ会ですが、平成19年秋には何と開催回数64回に達した歴史的なコンペです。

発足した昭和46年春には44人が加入して年1回の開催でしたが、昭和55年の第10回大会から春秋、年2回の開催となり、更に、平成13年春の第51回大会から、参加者減少を補い夫人も参加できるようにしました。この間、雨の降ったのはたった1回だけ。朝、雨が降っていても、級友の和気あいあいが雨を吹っ飛ばしてしまおうようです。(中22・長谷川 惇)



第63回大会参加者

各地区各回各同窓会あれこれ

②

意気軒昂！明智恵中会

平成十九年十一月十六日、明智町のロマン亭にて、明智恵中会が行われました。

幹事は三宅寿夫さん(旧中二十二回生)で、今回が十二回目となるそうです。近年、生徒数の減少や明智鉄道の不便さによって明智町からの通学生が急減していますが、大先輩たちが明智から通学した学生時代の話で大いに盛り上がったようです。ぜひ若い生徒たちにも聞かせてあげたいと思うことしきりでした。



記念植樹を囲み記念撮影

国税恵那高会が20年度総会



会員67人を擁する職域同窓会『国税恵那高会』では、平成20年度総会を4月12日、桜満開の恵那峡・湖楽園で開いた。参加者は15人で例年に比べると、やや寂しかったが、校歌、城陵歌を斉唱した後、全員大いに語りじつくり懇談した。

総会後、一昨年、第15回総会を記念して植えた『陽光桜』を囲んで記念撮影。今は高さ3メートル程度で花はチラホラだが、やがて大樹となり満開の花を咲かせる日が楽しみ。

(高1・古山 精)

出席50人、44%の高率

意気軒昂の中学22回同級会



中学校第22回の平成20年度同級会は、5月11日、恵那峡国際ホテルで開いた。ちなみに22回生は昭和23(1948)年に卒業し、今年卒業60周年。中学5年間の在籍実人員は201人、このうち住所判明者は195人。80人(41%)が死去し、115人(59%)が健在。今年久しぶりに参加者が50人に達し、出席率も軽く44%と意気軒昂。

正午、記念撮影後に開会校歌斉唱、物故者に黙とうをささげた後、3時まで思い出話に花が咲いた。

(古山 精)

伊藤会長のもと 東京城陵会総会開催

毎年銀座のレストラン「ライオン」にて行われてきた東京城陵会総会だが、伊藤忠生新会長になって初めて約2年ぶりとなる平成20年6月21日(土)正午から、日比谷「松本楼」において、旧制中学第11回生く高校第20回生までの同窓生百余名を集めて盛大に執り行われた。旧制中学の大先輩の挨拶に、前回から参加できることとなった五十代の若い(?)会員がかえって元気をもらうほど盛り上がった会。約2時間ほど旧交を温め世代を超えた親睦を図りながらおひらきとなった。



樹緑のつどい in 名古屋

平成二十年四月二十七日、旧中十六回卒の同窓会「樹緑会」の第五十三回総会が、名古屋地区の島崎正視さん、岡部純平さんらを世話役として行われました。この会には「恵那高の伝統を守る会」が校旗や応援歌集を届けられて、少人数ながら盛会のうちに徳川美術館前で



の記念写真撮影にてお開きとなりました。

全国から79名集めて 同窓会

高校17回生の同窓会はオリンピック開催年に実施すると約束し、平成20年8月10日、故郷が一望できる「ひるかわゴルフ場」に全国から総勢79名(恩師4名)が集いました。勝安喜、安田昌治両君による手ひねりの抹茶碗と原和君自慢の和菓子で、片山房江さん岡本祥子さんによるお茶席を楽しんだ後、さらに山内総太郎君による手造り美酒などが振る舞われ、創意工夫をした実行幹事らの努力が実りました。頭や顔に少々変化

が訪れましたが、互いに健康を称え、近況報告と思いを肴に時を忘れて酌み交わしました。(小栗暉史)



編集後記

大変遅れましたが、恵那高等学校同窓会報『城陵』の第8号第9号の合併号をやつと発行できる運びになりました。初めて経験する編集業務で、思った以上に手間取ったうえに、皆様から寄せていただいた貴重な資料を総て掲載することができず、心苦しいばかりです。それらにつきましましては、またの機会に紹介させていただきます。(源)